



溶接作業を体験

JSCA中国支部と交流会

三和鉄構建設(広島)を見学

広島県鉄構工業会・青年部会

広島県鉄構工業会の青年部会(部会長 光村圭介・ミツヤ工業常務)と日本建築構造技術者協会(略称・JSCA)中国支部(支部長 近松英樹・カナイ建築構造事務所)は11月29日に交流会を開き、三和鉄構建

設(尾道市、中島裕一朗社長、Hグレード)の尾道工場で見学会と鉄骨加工に関するディスカッションを実施。両団体の会員や広島大学の学生ら合計40人が参加した。

冒頭、島田泰実・広島県鉄構工業会副理事長(島田鉄工所社長)は「設計者に現場を見てもらうことはファブにとって貴重な機会」とし、続いて、畝博志・JSCA中国支部副支部長

冒頭、島田泰実・広島県鉄構工業会副理事長(島田鉄工所社長)は「設計者に現場を見てもらうことはファブにとって貴重な機会」とし、続いて、畝博志・JSCA中国支部副支部長

(竹中工務店広島支店設計部シニアチーフエンジニア)は「設計者と製作者が

交流することで仕事の幅を広げてほしい」と述べた。参加者一行は三和鉄構建設の中島健介取締役営業部長から企業や工場の概要の説明を受けた後、工場を見学。施工図作成から鋼材一次加工や組み立て、溶接(ロボット溶接)、検査(UT探傷)、塗装など一連の工程を見て回った。また、半自動で隅肉と突合せ継手の溶接を体験した。

チの向きの重要性を改めて理解できた」などの感想が挙げられた。

最後に田川浩・広島大学大学院工学研究科教授は「学生にとって大変良い経験となった。設計者としても設計図を描くときの参考になったと思う」とし、光村部会長は「実際の現場を見てもらう機会の必要性を感じ、見学会を企画した。大学生も関心を持ってくれたようで、業界PRにもつながった。青年部事業の『古い商習慣の見直し』の提言書の作成にも生かしたい」と締めくくった。



広島大の学生を含む合計40人が参加